養蜂めぐり歩き ＜その 4＞

石塚養蜂園をたずねて（その１）

6 月に宮城県にある養蜂園で、ザンビア人研修員も受け入れている石塚養蜂園を訪問する機会を得た。今回と次回の 2 回に分けて、日本の養蜂の一例として、その活動を紹介する。

石塚養蜂園は 1997 年、宮城県南部の丸森町耕野地区に石塚武夫氏によって設立された。千葉県出身の石塚氏は大学卒業後に鹿児島の養蜂家に弟子入りし、岩手や北海道での転飼なども経験しながら 2 年ほど腕を磨いた後、独立した。この土地を選んだ主な理由は、周りに養蜂農家が少なく、業者間の蜜源の競合が少なかったことだという。

石塚養蜂園敷地内の蜂場

現在、石塚氏のほか、養蜂に関わる従業員 1 名と販売に関わる従業員 1 名、その他 1 名の計 4 名で約 200 群のミツバチを管理し経営している。平成 30 年の統計では、日本の養蜂家 1 戸当たりの平均蜂群数は 22.2 群だが、専業であれば 100 群以上は必要という。日本の養蜂は、蜜源を求め日本列島を南北に転々と移動する「転飼養蜂」の形態が多いが、東北地方では拠点を移動しない「定置養蜂」が多いそうで、石塚養蜂園もこの形態である。「定置」と聞くと養蜂園の敷地内で、蜜を集めると想像したが、そうではなく、石塚養蜂園でも、蜂場が近隣に 10 か所ほどあり、蜜源の開花期に合わせ 1-2 週間程度で採蜜し、巣箱を次の蜂場に移動する。表に示すように 4 月下旬から咲き始まる菜の花、リンゴなどから採蜜は始まり、5 月下旬にはトチ、アカシアが咲き、6 月中頃に採蜜のピークを迎える。それ以降は蜜源が少なくなるが、6 月下旬にカキ、7 月上旬にクリ、8 月下旬からは阿武隈川河畔の草花がつづく。そして、11 月下旬から 4 月中旬までは千葉県柏市で越冬させる。年間のハチミツの収量は約 5 トンである。

一般の専業養蜂家は、小品目を大量に生産し、問屋に販売することが多いが、石塚養蜂園の生産した約 8 種類のハチミツは、道の駅や直売所、旅館やホテルなどで販売する。現在、アイスクリームや蜜蝋キャンドルも製造しているが、今後は、ハチミツを使ったハンドクリームや石鹸、ワッフルなど付加価値の高い製品にも取り組んでいきたいとのこと。また、ハチミツの需要もまだまだあるので、蜂場を増やすことも考えており、山林を借りて蜜源となるトチやアカシアを植えて管理し、生産規模を増やしていきたいと考えている。

ハチミツの生産の他に重要な経営の柱が、花粉交配用ミツバチの園芸農家への貸し出しである。ハチミツの生産が年により変動するのと違い、安定的な収入となるため、経営上重要である。農協を通して宮城県内のイチゴ農家と秋田県内のリンゴ農家に約 100 群を貸し出す。イチゴ農園の場合、採蜜は期待できないが、花のない冬季の貴重な収入源となる。リンゴ農園では 10 日間くらいの貸し出しの間にミツバチは花粉交配と同時に蜜も集めるので、ハチミツ生産にも貢献する。

次号では、養蜂の技術的側面と石塚養蜂園で研修するザンビア人研修の様子を報告する。

石塚養蜂園の採蜜、花粉交配用貸し出し、越冬の場所と時期

活動	群設置場所	蜜源植物	蜂群数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
採蜜	千葉県柏市	桜	200													*採蜜なし
	宮城県丸森町・近隣地区	桜	200													*採蜜は若干量
		菜の花	20													
		アカシア	60													
		トチ	120													
		カキ	30													
		クリ	200													*採蜜なし
		ソバ	30													
		河原の草花	100													
	秋田県	リンゴ	100													*授粉用貸出と同じ
花粉交配用貸出	宮城県内	イチゴ	300													
	秋田県	リンゴ	100													
越冬	千葉県柏市	－	200													
	宮城県丸森町	－	100													